

【保育所における感染症対策ガイドライン】に定められた感染症

治ゆ証明書が必要な病気				
病名	症状	潜伏期間	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹 (はしか)	発熱・くしゃみ・鼻汁・結膜炎・発疹	8～ 12日	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	発熱・咳・のどの痛み・ふしぶしが痛む	1～ 4日 (平均2日)	症状がある期間(発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い)	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで(乳幼児にあっては3日を経過するまで)
風疹 (3日はしか)	軽いかぜ気味・発熱とともに発疹	16～ 18日	発疹出現の前7日から後7日間くらい	発疹が消失してから
水痘 (水ぼうそう)	発熱とともに水泡ができる	14～ 16日	発疹出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発疹が痂皮化してから
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発熱・耳の下がはれ痛む	16～ 18日	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核	咳・たん・発熱	2年以上 (特に6か月以内)		医師により感染の恐れがないと認められるまで
咽頭結膜熱 (プール熱)	発熱・のどの痛み	2～ 14日	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎 (はやり目)	目の充血・まぶたの腫れ・涙や目やにがでる	2～ 14日	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	熱がなくて、夜になると咳が多くでる	7～ 10日	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111等)	激しい腹痛と水様便や血便(発熱は軽度)	3～ 4日		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎 (アポロ病)	結膜が出血し、赤く腫れ上がり眼痛、頭痛、発熱が発症	1～ 3日	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認められるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	発熱・頭痛・嘔吐	2～ 5日		医師により感染の恐れがないと認められるまで
治ゆ証明書は必要ないが、条件によっては登園できない病気				
病名	症状	潜伏期間	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	発熱・のどの痛み・頭痛・細かい発疹・いちご舌・口の周りだけ青白くなる	2～ 5日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	発熱・咳	14～ 21日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症する	3～ 6日	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅班 (リンゴ病)	頬が赤くなり、手足に発疹が出る	4～ 14日	発疹出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	嘔吐・下痢・腹痛	1～ 3日	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	発熱・のどの痛み	3～ 6日	急性期の数日間(便の中に1か月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	発熱・鼻汁・咳・せいでいする	4～ 6日	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
带状疱疹	小さな水疱が神経にそった形で体の片側に現れる	不定	水疱を形成している間	すべての発疹が痂皮化してから
突発性発疹	発熱後発疹(6ヶ月～2歳ごろ)	約10日	発熱している間	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと